

# CLF

同志社大学

学習支援・教育開発センターレポート

# REPORT

Center for Learning support and Faculty development report

2015.10

vol. **23**

## CONTENTS

**01**

P2 - P3

2015年度の設置部会、開催報告

- 2015年度新任教員研修会
- TA研修会
- 授業デザイン研究会

**02**

P4 - P5

ラーニング・コモンズ運営状況

- コモンズカフェ
- LA研修
- 学習相談

**03**

P6 - P7

2014年度  
「キャンパスライフに関する  
アンケート調査」について

- 大学に進学した理由
- 授業に対する取り組み
- 学習・生活習慣
- 満足度

**04**

P8 - P12

- 各学部・研究科・センターFD活動報告
- 各学部・研究科・センターFD活動費について
- 出張アカデミックスキルセミナー
- 学外FD企画参加記
- FD関連企画のご案内
- BOOKS 新着図書情報
- 2015年度「大学入学準備講座」のご案内
- Column 大学教育の今  
「初年次教育の意義を再確認」



# 2015年度の設置部会

## FD 支援部会

教育内容・授業方法の改善を推進するとともに、教育効果に関わる全学的な企画の検討を行うことを目的として設置されています。

部会長からのご挨拶

山田 礼子



2015年度事業計画

2013年度からFD支援部会長をつとめさせていただいている山田礼子です。

2013年度からは2012年度まで設置されていた教育効果向上部会がFD支援部会の一部として統合されました。その背景としては、本部会を所管する組織が従来の教育開発センターから学習支援・教育開発センターへと名称変更した点にも関係しています。そこには、TeachingとLearningは切り離すことのできないもの、教員と学生の相互作用の結果が「学びの成果」という概念が根本にあります。

2012年に公表された中央教育審議会の答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」では、「生涯学び続け、主体的に考える力」を意味する主体的な学修は、十分な学修時間を通じて醸成されるという認識が提示されました。そうした主体的な学生の学修へとつなげるためにも、教員の教育への関わりと学生への学習支援を一体的に考え、支援する方策を検討することが本部会の目的であります。

2013年度には、学生の主体的な学びを支援する環境としての「ラーニング・コモンズ」が開館し、素晴らしい環境が整えられました。こうした環境を効果的に使い、今後は成果へとつなげていくことが求められます。そのために設置された「学習支援検討部会」や大学院教育を検討する「大学院教育検討部会」とも連携しながら、本学のTeachingとLearningの向上のために頑張りたいと思います。よろしくご支援のほどお願いいたします。

- ①アンケート調査の実施と調査結果の利用促進、調査方法の検討
- ②「大学入学準備講座」の企画
- ③FDに関する意識高揚活動の実施
- ④FD講演会・ワークショップの開催
- ⑤FDハンドブックの充実
- ⑥その他(検討を必要とする各種課題)

## 大学院教育検討部会

本学の大学院教育充実のために、教学支援体制ならびに学生支援体制の強化の諸方策を検討することを目的として設置されています。

部会長からのご挨拶

久保 真人



2015年度事業計画

大学院教育検討部会は、本学大学院教育の組織的整備を全学的レベルで検討し、大学院教育のさらなる充実を図るため2005年に設置されました。

これまで、TA制度の整備・充実や大学院教育評価アンケートの実施、学部・大学院の連携科目設置に関するガイドラインの策定、シラバス整備、学位授与プロセスの明確化、ポスドク制度の検討、TA研修、大学院教育講演会の開催、博士論文審査ポイントの明確化、大学院生のキャリア支援に関する検討などを実施し、学部のFD活動とリンクさせながら、大学院独自のFDを全学的に推進するエンジンの役割を果たしてきました。さらに昨年度は、「キャリアビジョンに関するアンケート調査」の実施とその結果を踏まえた大学院共通基礎科目の検討、修士論文審査基準の明文化を全研究科で実現しました。

現在、大学院教育は、グローバル化に対応するため、国際的に通用する世界水準の大学院教育プログラムを提供する必要性に迫られている一方で、社会人の学び直しのニーズにあった、より実践的なカリキュラムの提供という要請にも応えていかなければなりません。このような状況の中、従来からの各研究科の個別的な取り組みだけでは限界があると言わざるをえません。今後ますます、本学の持つ資源を有効活用していくための全学的な方策を検討していかなければなりません。

本部会では、大学院教育をめぐる国際的・国内的な動向や、各研究科におけるFDの取組について、情報の共有と意見交換を行い、本学の大学院教育のさらなる発展のために「何ができるのか」について、議論と実践を重ねてまいりたいと存じます。今後とも皆様のご協力をお願い申し上げます。

- ①大学院共通基礎科目の全学的な展開の検討
- ②TA研修制度の検討
- ③大学院教育充実のための情報提供と意見交換
- ④その他(科目ナンバリングの導入検討等)

## 学習支援検討部会

本学における学習支援活動や学習支援環境(ラーニング・コモンズ等)の運営方法を検討することを目的として設置されています。

部会長からのご挨拶

新聞 三希代



2015年度事業計画

同志社大学ではこれまで、今出川・京田辺校地の学習環境整備に努めてきました。2013年4月の良心館ラーニング・コモンズの開設はその一つの到達点です。これを機に、正課科目と連携しながら、学生の主体的な学びの体験、質の高い授業外学習を呼び込むために、学習支援検討部会が設置されました。

本学の恵まれた学習環境を活かし、充実した学習体験を得るにはどのような学習支援プログラムが必要になるのか。既設の、そして今後予定される新たな学習支援プログラム・環境は効果的に運営されているのか。学生が正課科目や正課外の自主的な学びの中でどのような問題に直面し、悩みを持っているのかを把握した上でこうした課題に向き合っていかなければなりません。

具体的には、主体的な学びを可能にするスタディスキル習得プログラム、コミュニケーション技法プログラムのさらなる開発・編成、ラーニング・コモンズにおける学習活動の運営方法や正課科目へのフィードバックの方法が検討対象となります。そして、これらの効果の測定と検証を行い、そのデータ分析の公表と広報活動を行っていく必要があるでしょう。

学習活動の実態を観察しながら、試行錯誤しながらの検討になりますが、両校地それぞれの特徴に応じた学習支援のあり方、学習環境の整備を検討してまいりますので、皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

- ①学習環境と提供プログラムの効果測定
- ②学部教員との連携共同モデルの検討
- ③広報活動の強化
- ④2016年度以降の中期計画検討



# 開催報告

## 2015年度新任教員研修会・TA研修会

今年度の新任教員研修会を4月2日に、TA研修会を4月7日・9日・10日に開催しました。  
各研修会の動画・資料を下記のページで公開していますので、ぜひご覧ください。

新任教員研修会 「教職員のページ」(本学教職員のみ閲覧可能)

TA研修会 <http://cf.doshisha.ac.jp/ta/ta.html>



今年度は75名の参加がありました。



3日間の開催で合計408名の参加がありました。

## 授業デザイン研究会

授業への英語の取り入れ方、アクティブラーニングのアイデアなどを情報共有し、意見交換することを目的として、本学教職員を対象に授業デザイン研究会を開催しました。

**日時** 7月28日(火) 18:30～20:00

**会場** 今出川：至誠館3F会議室  
京田辺：ラウンジ棟207会議室

**ゲスト** 岡田 彩(本学政策学部・助教)  
William Robert Stevenson III(本学社会学部 教育文化学科・准教授)



昨年に引き続き、第2回目の開催となる授業デザイン研究会のゲストには、本学教員の岡田彩先生とWilliam Robert Stevenson III先生にお越しいただきました。

はじめに各先生方より、授業に英語を取り入れるための工夫や、アクティブラーニングのアイデアなどを資料や映像を用いてご紹介いただきました。

その後参加者からは、ゲストスピーカーの取組みに関する課題などについて質問が寄せられ、参加者からもアイデアや提言が出るなど、活発な意見交換・情報共有の場となりました。今後も授業改善に役立つ情報を共有できる機会を提供し、学生や教員にとってより良い学びの場が広がっていくことを期待しています。



当日の動画・資料を「教職員のページ」(本学教職員のみ閲覧可能)内の「教職員研修」ページで公開していますので、ぜひご覧ください。



# ラーニング・コモンズ運営状況

## コモンズカフェ

2015年4月から7月の期間で、計3回(第11回、第12回、第13回)のコモンズカフェを行い、同志社大学京田辺キャンパスの学部の先生をゲストとしてお招きしました。

### ※コモンズカフェとは…

同志社大学内外の研究者をお招きし、コーヒーや紅茶を飲みながら気軽にトークを行うイベントです。良心館ラーニング・コモンズ2Fグローバルビレッジで開催しています。毎回、知的好奇心が震える話が飛び出しますが、これを聞くことができるのは参加者だけの特権です。2013年11月に第1回目を開催し、2015年7月に第13回目を迎えました。

## 第11回 世界遺産ができるまで —記憶と記録—

**日時** 2015年4月24日(金) 14:55～15:55

**ゲスト** 津村 宏臣 准教授(同志社大学文化情報学部)

遺産を保護するということは、その遺産および景観に対する人々の関わり合い・関わり方をも残していくことです。価値の多様化が進むと同時に、地域には遺産の「タネ」になるような事象が沢山潜んでいることをお話いただきました。



## 第12回 スポーツと大学から世界をみる

**日時** 2015年5月29日(金) 14:55～15:55

**ゲスト** 藤澤 義彦 教授(同志社大学スポーツ健康科学部)

国際交流で得られることは、その国の文化や言語を知ることだけではありません。むしろ、日本の文化や日本人の立ち位置を知ることができます。加えて今回は、大学でスポーツを学ぶ上で文武両道を重んじることの大切さをお話いただきました。



## 第13回 アンチエイジングと学生生活

**日時** 2015年7月7日(火) 14:55～15:55

**ゲスト** 米井 嘉一 教授(同志社大学生命医科学部)

アンチエイジングを学ぶことは、自分がどんな人生を歩むのを見極めることにつながります。年を取ってからではなく、若いうちから生活習慣を整え、老化に対する意識を持つておくことが重要であるというお話をさせていただきました。



※各回の詳細な開催記録、また今後の予定につきましては、良心館ラーニング・コモンズHPをご覧ください。



## LA研修

2015年度新規採用ラーニング・アシスタント(LA)11名に対し、2015年度LA研修(第1～8回)を行いました。今年は、①コミュニケーション力をつける ②カリキュラムとアカデミック・スキルズを知る ③協同学習に関わる ④フォローアップの4本柱のプログラムを計画しました。③協同学習に関わる(第8回)については、8月3日に三重大大学の中西良文先生を講師にお招きしてワークショップを行いました。最終回(第9回)となる④フォローアップ(研修と業務の振り返り)は秋学期に実施する予定です。



### ※ラーニング・アシスタント(LA)とは…

良心館ラーニング・commonsで学部生の授業外学習に関する助言、相談業務を担当する大学院生スタッフです。開講・試験期間中の平日11時から19時までの間、様々な分野の大学院生が学習者にアシストしています。

## 学習相談

3Fアカデミックサポートエリアでは学習相談を実施しています。今回は2013年度から2015年度の4月から7月の相談者数の推移(図1)と、2015年度7月までの学年別相談者数(図2)を紹介します。

まず、図1から、どの年度でも7月に相談が増加する傾向があります。ただし、相談者延べ人数は、2013年度から年を経るにつれ増加しており、初年度の2013年度と本年度の2015年度を比べると2倍以上に増加しています(380名→776名)。

次に、図2から、1年次生の相談が圧倒的に多いことがわかります。相談内容としては、レジュメの作り方やレポートに関する相談が多くを占めました。多数寄せられる質問に対し、アカデミック・インストラクター、LA、情報探索アシスタントがチームとなってサポートしています。



図1: 2013年度～2015年度の相談者数の推移



図2: 2015年度4～7月の学年別相談者数

## 2014年度「キャンパスライフに関するアンケート調査」について

学習支援・教育開発センターでは、2004年度から「キャンパスライフに関するアンケート調査」を実施している。この調査は、学生の学習状況や意識を捉えることで本学の教育改善につなげることを目的とし、毎年3月下旬の成績交付時に、1年次および3年次の終了時点の全学生を対象に調査をおこなっている。

### 大学に進学した理由

学生がどのような理由で進学してきたのかを確認する。キャンパスライフに関するアンケート調査は、図1に示した10項目について「まったく重要ではない」～「非常に重要である」の4段階の選択肢で質問している。大学進学の原因として、重視（「いくらか重要である」+「非常に重要である」）されているのは「学生生活を楽しまたい」「幅広い教養を身につけたい」「大卒学歴を得たい」「就職に有利」「学ぶ内容に興味がある」である。一方で「すぐに働きたくない」といった消極的理由の重要性は低い。

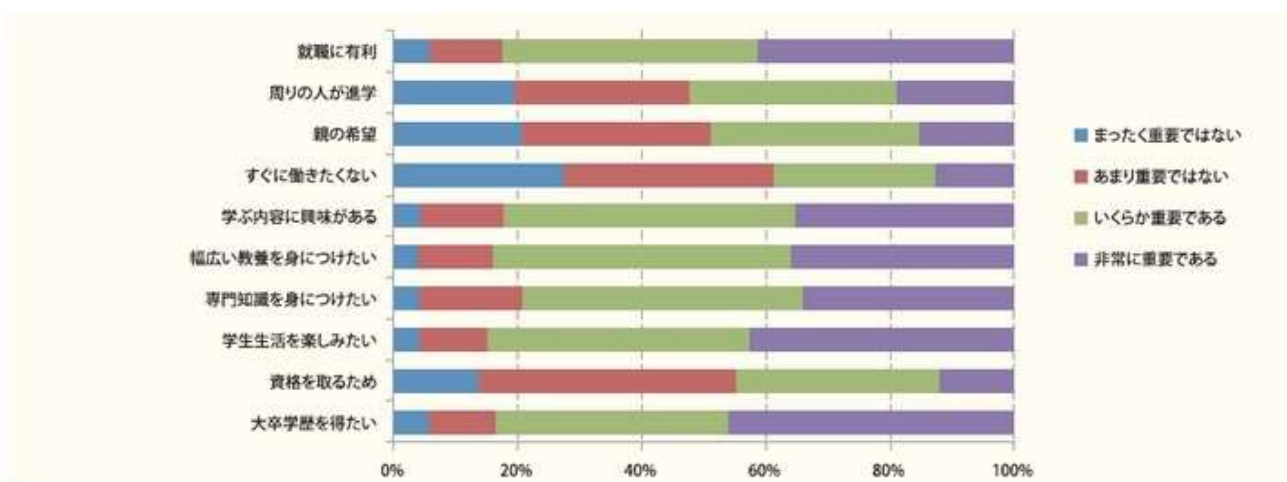


図1：大学進学理由（1年次）

### 授業に対する取り組み

つぎに、学生の授業への取り組み状況について確認する。図2は、授業への取り組みをあらわしている。「授業課題の提出」に対して「全くしない」と回答した学生はわずかであり、88.1%の学生は実行（「たまにする」「よくする」）している。「黒板に書かなかったことでもノートを取る」ことや「試験前に時間をかけて勉強をする」ことについても、多くの学生は実行しているようだ。また「授業に遅刻や欠席をする」ことについて、「よくする」と回答した学生は8.8%と少ない。

「授業の予習や復習をする」ことに対し、「たまにする」「よくする」と回答した学生は、半数弱（47.5%）となっている。また「授業内容について教員に質問する」に対し、4.6%が「よくする」、28.5%が「全くしない」と回答している。こうした分析結果から、本学学生の多くは、授業に対してまじめに取り組んでいるといえそうだが、積極的、主体的、能動的な学習に関して、活発であるとはいえない。

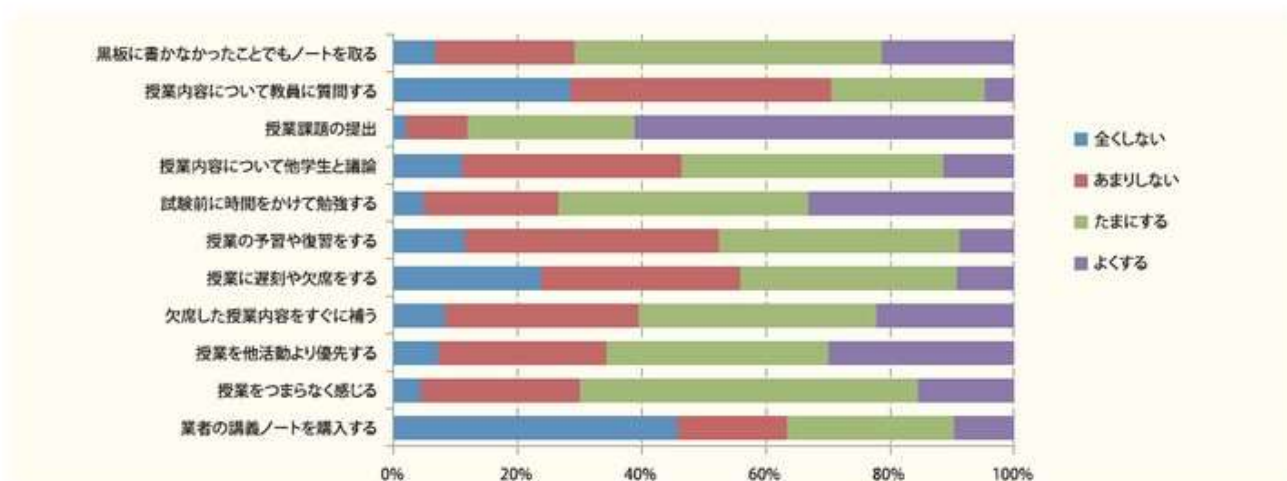


図2：授業に対する取り組み（1年次）



## 学習・生活習慣

入学後の学習・生活習慣を示した図3によると、「図書館を利用する」「インターネットで情報を収集する」「PCを使って文書や資料を作成する」に対し、「たまにした」+「日常的にした」と答える傾向が目立つ。「ボランティア活動」「新島襄や建学の精神にふれる大学の行事に参加」に対し、学生はあまり経験していないようだ。

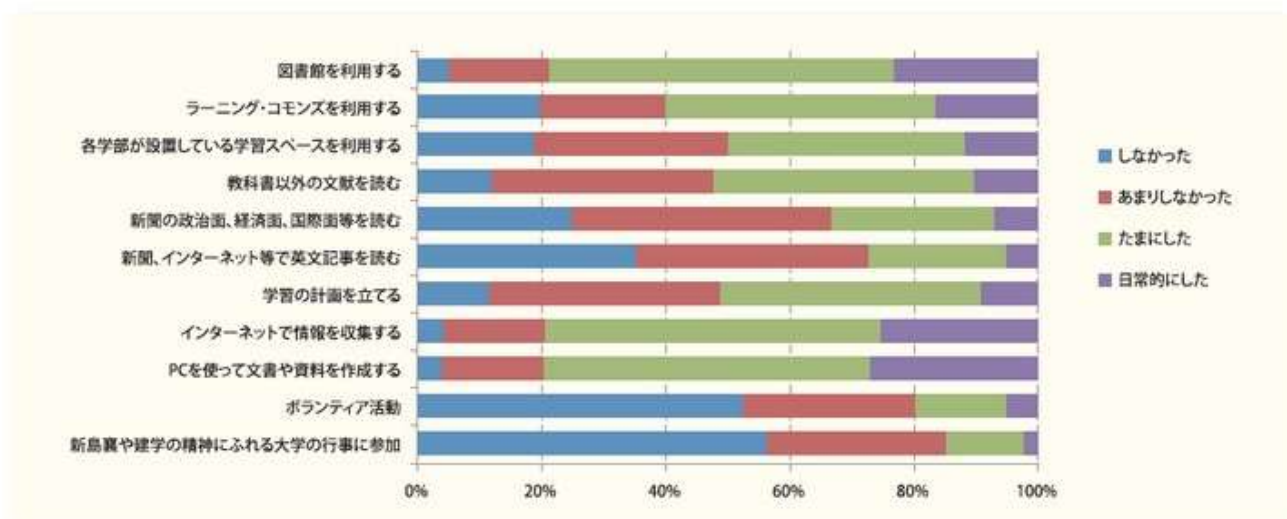


図3：学習・生活習慣（1年次）

## 満足度

領域別の満足度について確認する。図4をみると、「教室の設備環境」「図書館の環境や設備」「ラーニング・commonsの環境や設備」に対して比較的、学生は満足しているようすがうかがえる。一方、「英語・外国語の授業」「全学共通教養教育科目の授業」「免許・資格課程科目の授業」に対する満足度は、やや低い傾向にある。

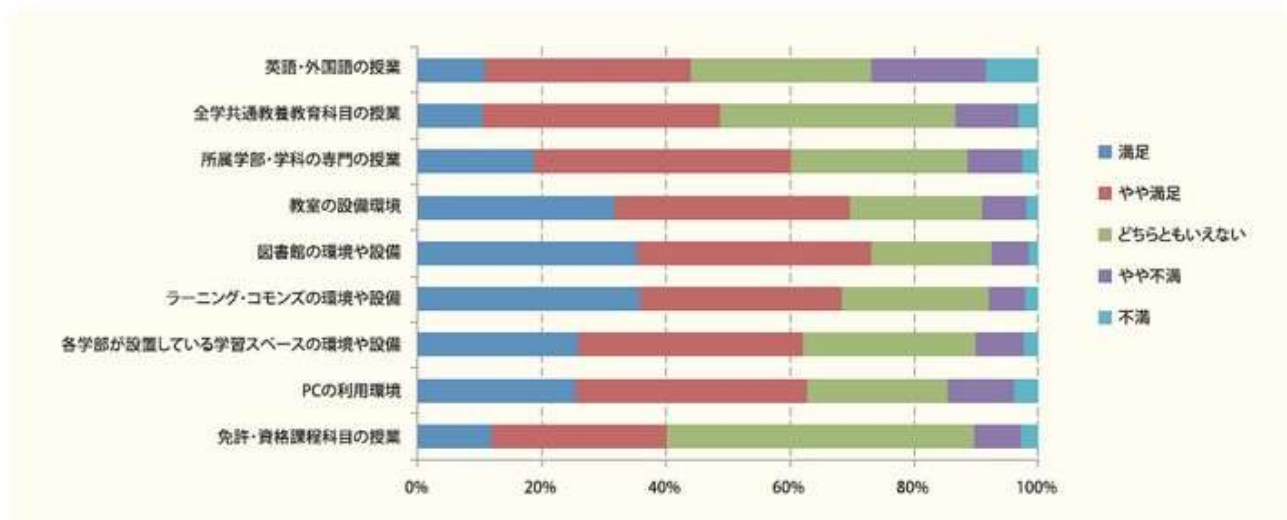


図4：領域別満足度（1年次）

以上、「キャンパスライフに関するアンケート調査」の集計結果の一部を紹介した。調査票および集計結果については、学習支援・教育開発センターHPにて公開する予定である。

## 各学部・研究科・センターFD活動報告

### 文学部

金津 和美

文学部においては、毎年初回の教授会で、学部アドミッションポリシー、各学科の人材養成目的、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを確認し、教育改善に向けて取り組むべき課題の明確化と検討を行っている。また、収容定員、在学者数、定員充足、教員数、ST比率を定期的に点検して、文学部の教育理念・目標を達成するために適切な教育環境の維持・改善が実現できるよう努めている。

前回のFD活動報告(2012年3月)以降も引き続き、文学部FD委員会主催で講演会を恒常的に開催してきた。「近年の大学教育改革の動向を探る」、「ラーニング・コモンズの学習支援と同志社大学のFD」といった演題の講演会には、教員の80%以上が参加し、FDの定着が確認できる。また、講演会には、事務長と係長も出席し、職員も情報を共有することによって、今後の教職協働の本格的な推進にも配慮している。

個性ある5学科から構成される学部の特性を活かすため、原則として、具体的な教育改善の工夫は各学科が主体的に検討し、各学科間での情報・課題の共有に努めつつ、各学科独自の取組を学部として組織的に支援する体制となっている。その成果として、たとえば、授業評価アンケート結果や成績評価(得点分布)などを参考にしながら、学部事務室の支援のもと、初年次教育のためのハンドブック作成などを行い、各学科の検討結果を学生に組織的かつ定期的にフィードバックしている。

### 社会学部

中川 吉晴

社会学部では、主任会メンバーを中心にFD委員会が組織されている。教員を対象としたFDでは、学習支援をテーマとして、学習支援・教育開発センターの教員による事例紹介ならびにラーニング・コモンズの今後の活用方策について意見交換が行なわれた。その結果、2015年度に入り、ゼミや初年次科目のなかでラーニング・コモンズの教員と連携する機会が増加し、学生がラーニング・コモンズを利用する頻度も着実に向上している。学生を対象にした取組みとして、毎年卒業生を対象に社会学部生卒業時調査を実施している。この調査は2009年3月から実施され、昨年度で第7回目の調査となった。調査内容は4年間の学業、学生生活、就職活動等を中心としている。集計データは学部教員に共有され、今後の教育方針を検討する際の参考材料となっている。社会学部・社会学研究科のオリジナル・ホームページでも集計結果を公表している。

### 経済学部

角井 正幸

経済学部では、1年次の夏休みに外部講師による「数学補習講座」を継続的に開催してきた。現カリキュラムでは、1年次春学期の導入科目「経済学概説」において数学的能力の確認を行い、夏休みの「数学補習講座」を経て、1年次秋学期に配置されている「経済数学」「初級ミクロ経済学」などの基礎科目への接続を図っている。

高校数学から経済学部における数学を活用した思考への接続を充実させるため、今年度は「教育方法・教材開発費B区分」の補助を受け、「文系学部生に求められる『高校数学』自学自習プログラム」の開発を行っている。本教材は、学生各自が数学に対するつまづきに「気づいた時点で」「必要な単元の」学習をオンデマンドで視聴できるようにすることを目的としたe-learning教材である。

これら一連の数学学習へのアクセス強化を通して、経済学部生の数学への苦手意識の極小化と、より発展した数学的手法を活用した経済学的思考の涵養へとつなげたいと考えている。



## 各学部・研究科・センターFD活動費について

学習支援・教育開発センターでは、各学部・研究科・センターレベルでのFDに関する組織的な取組に対し、年間一律30万円をFD活動費として配分しています。以下の点に留意していただき、積極的な活用をお願いします。

### FD活動費（FD支援費）の使用例

- 卒業時アンケート調査・新入生対象アンケート調査関連費用
- FD講演会・セミナー等開催関連費用
- 授業評価における専門的知識の提供に関する費用（講師謝礼）等
- FD合宿関連費用
- FD関連書籍購入費用

### 留意事項

- 教員個人レベルでの研究会、研修会参加費、部会委員としての催しへの参加経費等は「教育開発調査活動費」制度より支出する。
- 補助の対象は非営利活動に限定する。また、文部科学省等の補助事業には使用できない。
- 補助を希望する場合は、事前に学習支援・教育開発センター事務室に申し出る。
- 会合費\*を使用する場合は、本学専任教職員を補助対象とする（学外講師の会合費は補助可）。

#### \* 会合費について

- 研修会開催等の会議費用（昼夜を問わない）及び昼食時における学外講師との懇談費用の場合は1人あたり単価1,200円（税別）までとする。また、夕食時における学外講師との懇談費用等の場合は1人あたり単価3,000円（税別）までとする。
- 会合費にアルコールは含まない（会合費としての補助は不可）。

ご不明の点は、学習支援・教育開発センター事務室までお問合せください。

## 出張アカデミックスキルセミナー

学習支援・教育開発センターでは、大学での学びに役立ててもらおうと、良心館ラーニング・commonsのアカデミック・インストラクターによるさまざまなセミナーを行っています。

No.	セミナー名	概要 ※基本的に30～90分以内の単発セミナーとなっております。
1	学術文献の読み方	自らの課題、テーマを念頭に、どう文献を読み進めればよいのかをミニレクチャーと実習を通して学ぶ。
2	アイデアの拡張法	マインドマップと検索エンジンを使い、レポート・論文作成に役立つアイデア出しの方法を学ぶ。
3	伝わる文章の書き方	どうすれば伝わる文章が書けるか、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。
4	プレゼンの構成法	伝わるプレゼンの作り方・話し方等、事例を元にして学ぶ。
5	グループでのアイデア出し	グループで多くのアイデアを出す方法、またそれらの絞り方についてレクチャーと実習を通して学ぶ。（受講者が3名以上必要）
6	ソーシャルメディアの学術的利用法	SNSなどのツールを用いてウェブ上の情報を半自動的に収集する方法を学ぶ。
7	レポートの構成の立て方	テーマ設定のコツから構成の立て方など、レポート作成の基本を学ぶ。
8	ノートの取り方	聴きながらとる、読みながらとる。高校までとは違う、大学でのノートの取り方、まとめ方のコツを学ぶ。
9	ポスターの作り方	身近なツールを利用し、ポスター発表等で必要となるコツや技をサンプルを交えて学ぶ。
10	レジュメの作り方	授業やゼミの発表に欠かせないレジュメ。レジュメ作成のポイント、ミニレクチャーと実習を通して学ぶ。
11	引用の方法	なぜ引用するのか、どのような引用形式があるのか。「コピペ」と言われないレポートのルールを学ぶ。
12	ラーニング・commons活用法	ラーニング・commonsをフィールドとして、参加者の目線で活用法を考えるワークショップを行う。
13	図・表の見方・作り方	グラフの意味や適切な使い方について説明する。図表内の数値の見方、作図・作表の方法を学ぶ。
14	メールの書き方	教員に送る、調査先にアポイントメントをとる。その際、失礼にならない電子メールの書き方を学ぶ。

出張セミナーをご希望の場合は、希望日時の2週間前までに、[clf-seminar@mail.doshisha.ac.jp](mailto:clf-seminar@mail.doshisha.ac.jp)までご連絡ください。メールを受理後、申込書を添付ファイルにて返送いたしますので、必要事項をご記入のうえ、ご返送ください。

※人員の関係上、必ずしもご希望の日時に沿えない場合もございます。ご了承ください。

※休日は除きます。

※授業の一環としてご利用になられる場合は、担当教員の方のご同意が必要です。

※より多くの先生方にご利用いただけるよう、2015年度より一人の先生につき原則1回までのご利用とさせていただきます。



# 学外FD企画参加記

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメールリストを通じて、FDに関連したセミナーやシンポジウムのご案内をしています。実際に参加された先生にセミナーの様子や感想をお伺いしていますので、今後の参加の参考としてください。

※今後開催予定のFD関連企画はP.11でも紹介しています。

## 平成27年度FD推進ワークショップ (新任専任教員向け)

- テーマ 大学教員の職能開発とFD
- 開催日 2015年8月4日(火)～8月5日(水)
- 主催 日本私立大学連盟

### 政策学部 木場 紗綾 助教

10年ほどの海外生活を経て、同志社大学に転職して4ヶ月。人前で意見を述べることもグループワークにも慣れない様子の受講生を前に、どうすれば活発なクラス運営ができるだろうかと考えていたところ、本ワークショップの存在を知り、ただちに参加を希望した。

参加者は、日本私立大学連盟の委員の先生方をファシリテーターとする6～7名のグループに分類された。筆者のグループのメンバーは、神道古典を講ずる現役の神主、映画論を教える映画監督、元開発コンサルタントなど、分野も経歴もさまざま。

2日目は、全員が15分の模擬授業を実施し、講評しあう。普段はパワーポイントや動画を多用する教員も、使用してよいのはホワイトボードのみ。

私がかねてより、国際災害救援をテーマに、「机上訓練(Table Top Exercise: TTX)」と呼ばれる手法を授業に援用したいと考えていた。TTXはもともと軍組織の訓練ツールであるが、大規模災害において、各国の文民組織と軍とが協力、調整をすることが通例となっている現代において、民軍の実務家間の意見交換のツールとしても幅広く使用されている。ロールプレイと異なる点は、きわめて限定的なシナリオ(条件)が与えられ、時間制限があり、時間の経過に従ってシナリオが変化する点である。この手法は実務家にとっては有益であるが、社会に関する知識が限定的な大学生にいきなり提示することは危険である。まずは当たって砕けるつもりで模擬授業を実施した。結果、他の参加教員から有益なコメントを得ることができ、ある教員とは、ぜひTTXを大学教育のメソッドとして試験的に導入し、いつかは共同執筆もしたい、と盛り上がった。他の教員の模擬授業も非常に参考になった。ファシリテーターの先生からは、声のトーンや視線、表情に至るまで非常に細かいコメントをいただき、大学教育の最新動向と結びつけて、アクティブ・ラーニングの重要性を教えてくださいました。学んだ内容を授業で取り入れるとともに、周囲にも伝えていきたい。

## 第5回新任教員研修セミナー

- テーマ 国・公・私立大学の新任教員が大学の壁を越えて学び合い、交流する
- 開催日 2015年8月29日(土)～8月31日(月)
- 主催 大学セミナーハウス

### グローバル地域文化学部 穂山 洋子 准教授

2015年8月29日～31日、大学セミナーハウス(東京・八王子)で開催された第5回新任教員研修セミナーは、国・公・私立の新任教員が大学の壁を越えて学び合い、交流するというコンセプトのもと、多様な(価値観、目的、能力等をもつ)学生の意欲を高め、彼らに能動的な学びを通して、自らの課題を発見し、解決する力を培わせるための可能性の模索をテーマに実施された。本セミナーは、グループで課題を解決するなどのアクティビティを通じた体験学習SPA(セミナーハウス・プロジェクトアドベンチャー)プログラム、これからの大学の使命、学生参加型の授業の実践、大人数教室での効果的な授業運営に関する講演、授業運営に関する参加教員が抱える問題についてのグループ討議、さらに「現代教育論」をテーマとしたシンポジウムで構成され、充実した内容であった。

本セミナーから多くを学んだが、ここでは今後導入を検討したい二つの点について紹介する。一つは、授業内に完成させる小レポートの積み重ねを軸とした授業を行うBRD(Brief Report of the Day)方式である。事前の講義概要の配布による予習を前提とし、授業で20分程度の補足説明を加え、学生に、与えられたテーマに関するレポートを授業内に作成させるのである。これより学生の主体的な授業参加が可能となり、単に講義を聞くよりも内容に関して理解が数段深まる。

もう一つは、多様な学習スタイルを取り入れた授業運営である。学習スタイルには、CE: Concrete Experience(直接体験型)、RO: Reflective Observation(内省観察型)、AC: Abstract Conceptualization(抽象概念型)、AE: Active Experimentation(試行実験型)がある。どの学習スタイルを好むかは個々の学生により異なるため、一つの授業内で講義(AC)、ケース・スタディ(AE)、グループでの話し合い(CE)、振り返りのレポート(RO)などを取り入れて、様々な学習スタイルに対応することが必要である。

本セミナーで学んだことを今後の授業運営に活用していきたいと考えている。



## FD関連企画のご案内

学習支援・教育開発センターでは、ホームページやメーリングリストを通じて、学内外で開催されるFD関連企画を紹介しています。メーリングリストでの情報配信をご希望の場合は、学習支援・教育開発センター事務局までお知らせください(本学専任教職員を対象とします)。

今後、学外で開催される主な企画は以下の通りです。その他の企画についても随時お知らせしますので、積極的なご参加をお待ちしています。

研究科・研修会のご案内ページ

<http://clf.doshisha.ac.jp/research/research.html>

開催日程	企画名称	会場
11月7日(土)	日本私立大学連盟 私立大学フォーラム	松山大学 文京キャンパス
12月5日(土)	日本私立大学連盟 私立大学フォーラム	関西大学 千里山キャンパス
11月28日(土)・29日(日)	大学教育学会 課題研究集会	岩手医科大学 矢巾キャンパス / 岩手大学
3月5日(土)・6日(日)	大学コンソーシアム京都 第21回FDフォーラム	京都外国語大学
3月17日(木)・18日(金)	第22回大学教育研究フォーラム	京都大学 吉田キャンパス

※上記一覧は予定ですので、開催時期や会場が変更されることがあります。

※参加にかかる費用は学習支援・教育開発センターが負担します。

## BOOKS 新着図書情報

学習支援・教育開発センターでは、大学改革やFD関係の図書資料を収集し、専任教職員の方に事務室で閲覧していただけるようにしています。貸出も可能ですので、センターに直接お越しになるか、ホームページ掲載の所蔵図書資料一覧をご覧ください、ご希望の資料があればメールまたはお電話でご連絡ください。学内便でお届けします。

図書資料のご案内ページ

<http://clf.doshisha.ac.jp/books/list.html>



### ディープ・ アクティブラーニング

松下佳代(編著)  
勁草書房  
2015.1  
ISBN : 978-4-326-25101-8



### 世界の ラーニング・コモンズ

溝上智恵子(編著)  
樹村房  
2015.3  
ISBN : 978-4-88367-241-7

\*センターで所蔵した方が良いと思われる書籍等がありましたらご推薦ください。

また、図書以外にも、FDに関する雑誌・機関紙や報告書等を収集しています。上記の「図書資料のご案内ページ」よりご覧いただき、ご活用ください。

## 2015年度『大学入学準備講座』のご案内

学習支援・教育開発センターでは、高校生向けに、大学で要求される学習の質と量を知ってもらい、正しい学部選択の機会を与えることを目的として、「大学入学準備講座」を開講しています。

この講座では、秋学期の土曜日の午後に、各学部・学科の教員が、それぞれの専門分野で扱う学問の内容から面白そうなテーマを選んで、実際の大学での講義と同じ形式で、高校生に授業を行います。

今後開講分の講座については受講申込みを受付けていますので、詳細は以下のURLよりご参照ください。

大学入学準備講座のページ

[http://clf.doshisha.ac.jp/preparation\\_course/course.html](http://clf.doshisha.ac.jp/preparation_course/course.html)

	13時10分～14時40分	14時55分～16時25分
9月26日(土) 京田辺キャンパス	【講座①】スポーツを科学的側面から解析する スポーツ健康科学部 竹田 正樹 教授	【講座②】比較文化論入門ーグローバル化する若者文化 文化情報学部 田口 哲也 教授
10月3日(土) 今出川キャンパス	【講座③】江戸の教育 社会学部教育文化学科 沖田 行司 教授	【講座④】テレビCMの芸術学 ー商品を魅力的に見せる方法ー 文学部美学芸術学科 岸 文和 教授
10月24日(土) 今出川キャンパス	【講座⑤】世界の“Englishes” グローバル・コミュニケーション学部 吉田 優子 准教授	【講座⑥】農・食・地域をつなぐ アメリカ合衆国のファーマーズマーケット グローバル地域文化学部 二村 太郎 助教
10月31日(土) 今出川キャンパス	【講座⑦】誘惑と自製の心理学 ー心と行動を科学により探るー 心理学部 青山 謙二郎 教授	【講座⑧】地域創生の政策学 ー地域の元気をみんなで取り戻す 政策学部 山谷 清志 教授
11月14日(土) 今出川キャンパス	【講座⑨】ホメイニーを知る 神学部 富田 健次 教授	【講座⑩】子どもの迷惑は親の責任? 法学部法律学科 坂井 岳夫 准教授
11月21日(土) 今出川キャンパス	【講座⑪】経済学的思考のススメ 経済学部 宮本 大 准教授	【講座⑫】商品と社会について 商学部 川満 直樹 准教授
12月5日(土) 京田辺キャンパス	【講座⑬】森林生態系の提供する 「食物と住み場所」テンプレート 理工学部環境システム学科 武田 博清 教授	【講座⑭】アルツハイマー病の克服に向けて 生命医科学部生命システム学科 舟本 聡 准教授

## Column 大学教育の今 「初年次教育の意義を再確認」

中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花開かせるために～(答申)」(平成26年)が公表され、現在、高校教育、大学教育、大学入学者選抜のいわゆる三位一体改革が進められています。大学入試改革にとどまらず、初中等教育で培ってきた「生きる力」と「確かな学力」を高等教育まで一貫して育成していくことは、様々な課題を抱える日本社会にとって喫緊の課題であるといえるでしょう。

今回の高大接続答申では、改革の目標については「高等学校教育と大学教育において、十分な知識・技能、十分な思考力・判断力・表現力、及び主体性を持って多様な人々と協働する力の育成を最大限に行う場と方法の実現をもたらしことにあり」とされ、アドミッション・ポリシーをはじめとする3つのポリシーの充実が深く求められています。同時に、今では多くの大学で普遍化している初年次教育について、答申が「初年次教育の展開・実践は、高等学校教育の成果を大学入学者選抜後の大学教育へとつなぐ、高大接続の観点から極めて重要な役割を果たすもの」と明確に評価しているように、初年次教育への期待が高大接続とセットで高まっていることがわかります。今後は、高校教育の実際、入学者選抜の方法、その結果としての入学者といった観点から更なる初年次教育の方法の開発と着実な成果が求められるのではないのでしょうか。

学習支援・教育開発センター所長 山田 礼子

**CLF REPORT**  
Center for Learning support and Faculty  
development report

「シーエルエフ レポート Vol.23」

同志社大学 学習支援・教育開発センター レポート

発行日：2015年10月23日

Tel. 075-251-3277 Fax. 075-251-3025

発行者：同志社大学 学習支援・教育開発センター E-mail: [ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp](mailto:ji-kyoik@mail.doshisha.ac.jp)

京都市上京区今出川通烏丸東入 明徳館1F <http://clf.doshisha.ac.jp/>